

第5回京都山城便教会

平成27年11月8日（日）

京都山城便教会を立ち上げて1年が経ちました。今回は、第1回で使用させていただいた維孝館中学校で行わせていただきました。1年の節目を、産声をあげた原点の地で行わせていただけることを非常にありがたく感じております。

今回は、会の冒頭に、大谷先生からメールでいただいた「見えない缶」の話を使わせていただき、次のような話をさせていただきました。

「見えない缶」の話は、電車で転がっている缶を、目の見える私には拾えず、目の見えない女性が拾われたというものです。学校にいと当然、生徒が目に入ります。でも見えているからこそ、見えないものがあるのではないのでしょうか。今日は生徒の姿は見えません。だからこそ、便器と向き合いながら、見えない生徒の姿を思い浮かべて下さい。そうすると、今まで見えなかったものが見えてくるのではないのでしょうか。

またトイレを児童・生徒と思った際に、このように考えてはどうでしょうか？トイレはいつも汚いものを受け止めています。生徒も毎日の生活で、「きもい」「死ね」などの汚い言葉を受けています。最近では耳だけでなく、ネットなどで目からもその情報を受け止めてしまいます。トイレと一緒に、生徒の心にも知らない間に汚れがこびりついていて、それが当たり前になってしまっているのです。

今日はそれをていねいに磨いて下さい。その際に道具を選んで下さい。基本は柔らかいものから順番に。スポンジで取れる汚れをドライバーで取る必要はありません。そうすることでいらない傷をつけなくて済みます。そうやってていねいに磨いていくと、トイレが輝き出します。生徒指導も同じです。叱って、共感して一緒に頑張ろうと励ます。そうやって涙を流した後の生徒の表情はすっきりとしているではありませんか。

今日はこのようなことをテーマを持ちながら、トイレ掃除に励みましょう。

こうして始まったトイレ掃除。参加者の皆様は、ただただトイレに向き合いながら、黙々とトイレを磨いておられました。「シュッシュュッシュュ」というサンドメッシュの音だけがトイレの中に響き、場の空気がどんと変わっていくのが分かりました。そして、その場の空気がまた参加者を包み込み、トイレも心もきれいになっていく素晴らしい会となりました。



トイレ掃除が終わって、参加者の皆様から感想をいただきました。

- ・感謝の反対は当たり前ということを先日の研修で教えていただいた。今日は、それが本当だということをしてトイレ掃除をしながら感じる事が出来た。
- ・日頃はトイレ掃除をしないが、今日はやる以上はとことんきれいにしたいと思ってやったら、すごくスッキリした。
- ・見た目ではきれいになったように見えるが、手で触ってみるとまだ残っていることが分かる。じかに触ることの大切さを感じた。
- ・「水に流す」ことが大切だと感じた。悪いことを水に流し、良いことは残しておきたい。これは欲である。良いことも悪いことも水に流すことで、新しい自分に出会えるのではないだろうか。

私は今回の便教会で、トイレを黙々と掃除する時間を取ろうと決めて臨みました。最近、自分の中で「言い訳」ばかりが先行してしまい、まわりに振り回されている自分がいました。結局、自分の軸が歪んでいるからまわりに振り回されるだけなのに、自分を見ずに、まわりばかりを見ている自分がいました。そんな自分と向き合うためにトイレ掃除に臨み、最初は生徒の姿をイメージしていたのですが、途中から息子の姿が思い浮かんできました。小学校5年生の息子は、少年野球をやっており、毎日朝練習を一緒にしています。その最後に、家の前の掃き掃除と洗面台前のフロアを拭くというのが彼の日課なのですが、そこに私の姿はないのです。息子に掃除の大切さを伝えたくて、そして素直に聞き入れる息子とは正反対に、「仕事に行くから」「学校に早く行かないと」と言って、一人で掃除をさせている父親であることに気付きました。それを話しながら涙がこぼれてきました。家族との時間が取れていないこと、それを仕事のせいにしてしている自分。今日のトイレ掃除では本当に大切なことに気付かせていただきました。私は家族を大切にしたい。家内が作ってくれたおにぎりを食べながら、息子のことを思い、家族が自分に元気を与えてくれる大切な存在であることを心の底で感じる事が出来ました。そして最初にお話をさせていただいた心の汚れを取っていただいたのは、紛れもなく私自身でした。

会が終わり、学校を出ると降っていた雨もやみ、木々の葉っぱがきれいに映りました。大谷先生が言われた「水に流す」という意味。そして、中山靖雄先生に教えていただいた言葉がふと頭をよぎりました。

良し悪しの中を流れて清水かな

良いことと悪いことが心の中を言ったり来たりして、でもトイレ掃除をしてすべてを水に流していただいた。その水は私にとって清水であったんだと感じ、家族が待つ家路へと向かいました。

